

2023年度「裾野市地域公共交通計画」事業実施状況の評価

資料No.7

基本方針	目標	評価指標	現状値 (令和3年度)	目標値 (令和9年度)	進捗状況	実績値 令和5年度	実績値 令和6年度	実績値 令和7年度	実績値 令和8年度	実績値 令和9年度	評価実施時期	
		(アウトプット指標)注										
方針1:公共交通のネットワークの再構築及び利便性の向上	目標1:鉄道の利便性の向上	①裾野駅・岩波駅乗車人数	126万人/年	126万人/年以上		JR確認中					毎年	
	目標2:乗継拠点の機能強化	②乗継のしやすさに対する市民満足度(「不満、やや不満」の減少)	31.6%	30%以下	—						計画最終年度	
	目標3:バス・タクシーのネットワーク再構築・利便性の向上	③市内路線バスの収支率	④バス路線や便数に対する市民満足度(普通以上)	39.5%	39.5%以上	○	50.6%					毎年
			⑤公共交通に係る市の財政負担額	44.2%	50%以上	—						計画最終年度
	目標4:バス・タクシー運行の維持		15,000千円/年(令和4年度)	15,000千円/年(維持)	○	10,577千円					毎年	
方針2:公共交通の認知度の向上及び利用促進	目標5:公共交通に関する分かりやすい情報提供	⑥新たに作成する「地域公共交通マップ」の認知度	—	50%以上	△						計画最終年度	
		⑦運行情報案内に対する市民満足度(「不満、やや不満」の減少)	33.0%(令和4年度)	30%以下	—						計画最終年度	
	目標6:市民や関係主体の総力による公共交通の利用促進	⑧市内路線バスの利用者数	28.4万人/年	28.4万人/年以上	○	30.2万人					毎年	
		⑨商業・観光施設等との連携による利用促進策の導入件数	0件	1件以上	—	0					実施後	
方針3:地域と一体となった移動支援の充実	目標7:交通弱者に対する移動支援策の充実	⑩移動支援策の導入(改善)件数	0件	1件以上	—	0					実施後	
	目標8:地域に合った移動手段の導入	⑪新たな公共交通システム導入件数	0件	1件以上	—	0					実施後	

【進捗状況凡例】
 ◎ 前倒しで推移 現状値が目標値に向けて想定以上に推移しており、目標達成が見込まれる。
 ○ 順調に推移 現状値から判断し、目標達成が見込まれる。
 △ 取組みに遅れ 目標達成に向けて、より一層の推進を要する。
 — 取組み前

主な取組み

- ① 「裾野市内循環線」の利用実態を把握するため、モビリティ勉強会の一環で乗りこみ調査と対話集会を実施。
 - ・令和5年6月に「青葉台・千福が丘ルート」と「青葉台・岩波ルート」の全便に乗車し、利用者へアンケートを配布した。
 - ・利用者及び運転手から意見を聴取した。
 - ・8月と12月にバス利用者との対話集会を行い、実際の利用者の声を集めた。

- ② 「裾野市内循環線」の利用促進活動の実施
 - ・市内公共施設等に路線図と時刻表のポスター掲示およびリーフレットの配架を継続。
 - ・市公式HP等への記事掲載。

- ③ 高齢者バス・タクシー利用助成の実施
 - ・すその一の廃止に伴い、これまで運行区域外にお住いの70歳以上の高齢者を助成対象としていたが、令和4年度から地区による制限をなくした。
 - ・定期的に広報無線や広報紙、市公式LINE等で周知を図った。
 - ・利用者の負担軽減のため、オンライン申請や新年度の助成券について郵送対応などを行った。

- ④ JR御殿場線利便性向上のための要望活動の実施
 - ・JR東海に対し、JR御殿場線の増便等の要望活動を1月に実施。
 - ・令和4年度より地域連携としてJR東海が市へ定期的に訪問。令和5年度は2回訪問があった。これにより、連携を密にしたタイムリーな要望、意見交換が可能となった。